

歌の夕七の宮新州紀

ト調 4/4

3 3 3 2 7 6 7 1 | 3 4 3 2 3 | 4 4 6 4 |

シチガツナメカハノ — — タ ナ バ タ
こーこはくまのちの — — むいへは

3 4 3 1 7 | 6 7 6 4 3 | 6 6 7 1 |

サ — マ ヨ カ — ハ ナ ハ ナ テ テ
う — ど の は — し を か け ま し

4 4 3 3 4 6 | 3 4 6 3 4 6 ||

コヒ ナ メ ス ヨ ト コ ヨ キ ナ ヨ
ふなばしをよとこよきなよ

あることを信ずる、そして之を世人に普及するは刻下の急務であることを疑はぬ、余はもと白面の一醫生であるが、之等の理由によりて、敢て自ら揣らず、數々かくの如き問題を提げて大方の示教を仰

ぐのである。

附記、活字の誤植と云ふ事は時として愛嬌を生むものであるが、時として只一字の誤から正反對の意味となり、前後の關係を支離ならしむるものがある、前號の拙文「健康と家庭」七十一頁二行目の「關するも」は、はの誤、十二行「去れど」は「去れば」の誤である、前者は兎も角、後者は文意を損ふから敢て正して置く。

七月七日はの

たなばたさまよ

川をへだて、

戀をめすよ。

こゝは熊野地の

むかへは鶴殿

橋をかけましょ

舟橋をよ